

報道から

地域交流協定を初締結

酪農学園大・短大が浜中町と

大学と地域が密接に連携し、長谷川徳幸浜中町長生への実践教育の場研
 携し酪農を中核とした地が出陣し、石橋榮紀JA
 城振興と人材育成を図る。浜中町組合長が同席し
 う。と、酪農学園大学。①本日は浜中町の産
 と同短大、創設内浜中業・文化・生活・教育等
 町のある者が24日、地域総の振興を請け寄与するは、酪農担い手育成、参
 合交流協定を結ぶ。②町は同大学の教育・研
 究の場と協定。研究の振興と協定に協力す
 をモデルケースとして今後、③各項目の協定
 は他地域にも広げ、地域に響き、交際した。
 振興に役立ちたい」とし
 調印は江別市の大学本 源、研究費を浜中町が
 部で行った。大谷俊昭大 抱える課題解決のために
 学長、安宅一夫短大 活用する。また、町は学
 校、浜中町は酪農・漁業を

地域総合交流協定締結



交流協定締結後に握手する
 酪農学園大・浜中町側の代表者
 身子弟が同大学で多く学
 び、大学の現場実習も積
 極的に受け入れていた。
 さらに、大学公開講座を
 同町で開催したり、同に
 わなる「浜中町の長期
 計画」にも大学スタッフが
 協力してきた。こうした
 実績が今回の総合交流協
 定に結実した。
 大学長は「大学の持
 つ人材、技術を地域に
 体たなげて生かすこと
 地域活性化に役立つ
 ると確信している。学生
 も現地に入って敵し鍛
 えてもらうことで、役に
 立つ人材育成、後継者育
 成に結びつけた」と協
 定の意義を語った。

日本農業新聞 2005年2月25日

受け入れ農家の人たちに自己紹介する酪農学園大の研修生



ようこそ酪農学園大生 鹿追で研修受け入れ式

【鹿追】酪農学園大（江
 別市）の本地研修プログ
 ラムで、町内に滞在し酪
 農研修を行う学生の受け
 入れ式が二十日、町の入
 力センターで開かれ、カ
 ントリパー」で開かれ
 た。
 同大に昨年、新設され
 た「実践酪農学コース」
 に在籍する学生の初の研
 修。鹿追町で三人、創設
 管内浜中町で一人が二十
 一日から八月半まで研
 修する。鹿追では宿舎の
 町営住宅から受け入れ農
 家に通って作業をする。
 受け入れには研修生
 の長嶋泰裕さん、上島優
 子さん、庄司健さんの二
 年生三人を受け入れ農家
 や大学関係者が合わせて
 十四人が出席し、鹿追町
 農協の佐藤雅一組合長が
 「酪農の現場に触れて、
 多くのことを吸収して

北海道新聞 2005年4月21日

「だいたい」と学生を激励。呼びかけたい」と話して
 三人が自己紹介し、昼食
 を取りながら歓談した。
 同大で実践酪農学を担
 当する新名正勝教授は
 「五月、六月には鹿追集
 中講義を行う予定で、地
 元酪農家の方にも参加を

本場の牧場で実習

酪農学園短大の三浦、山根さん

夏休み返上8月まで

酪農学園大学短期大学部の三浦美さんと山根太さんは、創設
 管内浜中町と酪農学園大学・短大が今年9月に結んだ地域総合交流協定に
 基づき、同町の酪農家・二瓶昭さん（55）と菊池忠志さん（53）の牧場、
 実習に励んでいる。実習を始めて2カ月以上が過ぎ、毎日の作業に慣れ
 た2人は、8月9日まで予定だったが、学校の許もあり、8月末まで
 夏休みを返して実習する」と、意欲を燃やしている。



意欲的に酪農実習に励む山根さんと三浦さん

の経営士・園さんとは人
 できてはと働き、素早
 く作業を終わらせてい
 る。将来は自分が生産し
 た牛乳を使ってレストラ
 ンを経営したい」と熱心
 に実習に臨んでいる。
 22日には、JA浜中町
 を訪れた酪農学園大学酪
 農学部の新名正勝教授か
 ら乳牛の管理技術を、同
 本全乳学部長から飼料成
 分と乳組成、産前・産後
 の栄養管理と代謝病「フ
 ェーズフィーディング
 （乳期別給与方法）」と栄養
 要求量の講義を聞いた。
 3カ月以上に及ぶ長期
 間の学生の酪農実習は、
 大学でも初の試みであっ
 て、成果に期待が寄せら
 れている。
 酪農の発展を目指す、大
 学が持つノウハウ（人
 なく、酪農家家族の指導
 い、山根さんは「実習先

が抱える課題解決に生か
 す一方、町が酪農協に
 学生を受け入れて実践教
 育の場と研究材料を提供
 する。2005年度に
 は、浜中町をフィールド
 として共同研究もいつ。

浜中町

日本農業新聞 2005年6月30日

研修を振り返り、楽しく語り合う研修生と受け入れ農家



酪農学園大生ら
農家実習終え交流
JA鹿追町

【鹿追】十勝管内のJA鹿追町は、酪農学園大学との実地研修プログラムに基づき、この春から大学2年生3人を受け入れ、農家実習を続けてきた。この研修がほぼ終了したことを受け23日、町内のレストランで、受け入れ農家、学生、酪農学園大教授、JA関係者が交流会を開き、学生たち

を激励した。農家で現場実習は、酪農学園大学に昨年新設された「実践酪農学コース」に在籍する学生の初の研修。2年生の長恒泰裕さん、上島優子さん、庄司睦さんの3人が、4月から鹿追町が用意した町営住宅に住み込み、そこから受け入れ酪農家の牧舎に通って研修を受けてきた。

講義で学んだことを、現場の実践作業で体得すること、循環と共生を基本とした酪農生産の実現と、地域の農村生活・農村文化を創造できる酪農の担い手（酪農家、牧場管理責任者、営農指導者など）を育てることを目的としている。

3カ月半に及ぶ研修も残すところ2週間となり、レストラン「大草原の小さな家」で開かれた。

交流会で、学生は「座学と現場の違いを肌で感じる事ができた」「技術を身に付けることだけでなく、酪農に対する心構えが学べた」「単なる手伝いとしてではなく、酪農というものをよく考えることができた」などの感想をそれぞれ述べた。

受け入れ農家は「短期間だったが、酪農を志す若い人たちの交流ができて、非常に良かった。頑張ってもらいたい」と、和気あいあいのうちに楽しいひとときを過ごした。

日本農業新聞 2005年7月26日

将来は牧場のオーナーを目指し

大学と地域が密接に連携し、酪農を中核として地域振興と人材育成を図ることを目指し、酪農学園大学・同短大と浜中町とで地域総合交流協定を2月に結び、その一環として酪農学園大学から2人の実習生を受け入れています。

三浦裕美さん（東京都）と山根憲太さん（広島県）は現在2年生で、4月20日から8月9日までの期間、各酪農家のトレーラーハウスに居住し、実習生活をスタートさせています。その間、インターネットでの授業、レポートの提出や教授が出席についての講義を数回受講するなど、充実した毎日を過ごしています。

将来は、酪農家としてあるいは酪農関係の仕事につけばと抱負を語っていました。



浜中町広報誌 2005年6月

酪農学園大生2人が浜中に来町



「貴重な実習体験を生かせるよう有意義な時間を過ごしていただき」三浦さん

【浜中】町と酪農学園大学・同短期大学部・大谷優昭校長、安宅一夫短期大学部学長が7月に結んだ「地域総合交流協定」に基づき、同大学の三浦裕美さんと山根菜々さんが、町内酪農家の牧場で実践教育を学んでいる。同大学でも3月以上で学ぶ学生の酪農実習は初の試みで、同大学の新たな歴史を切り開くことにもなる2人に期待が掛かる。

「毎日新鮮な発見がある」

酪農の本場で実践教育

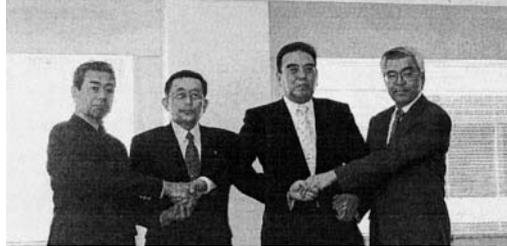
石川直樹

場は学生を受け入れる畜産入り、牛舎清掃、搾乳、実習教育の場や研究、乳、餌やり、放牧など、材料を提供する。町と同大学は、学生の三浦さんは朝早いのは酪農実習受け入れ、町のつらさや、毎日いろんな農業計画策定を、互いの発見がもたらす、二瓶牧場では、2005年度は、浜三浦さんが行う牧草調査中町をフィールドとした、や餌の質と量の調査(共同研究を実施するほか)に協力している。

釧路新聞 2005年5月15日

酪農大「総合交流協定」を締結 浜中町

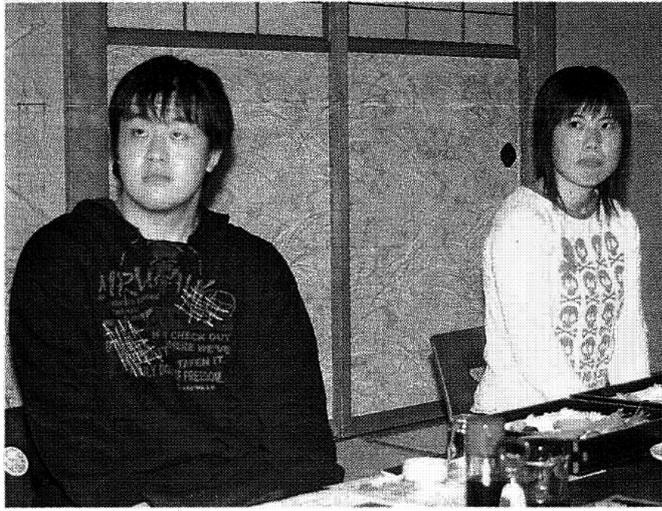
或総合交流協定締結式



【別】酪農学園大(江別市)と釧路管内浜中町は二十四日、同大で農業、環境保全などをさまざまな分野で、相互に連携、交流する「地域総合交流協定」を締結した。新年度から、同大の学生が町の酪農家のもとで実習するカリキュラムをスタートさせる。協定により、大学側は学生の実践教育の機会を増やし、町側は大学の研究、人材を町の活性化につなげる利益があり、相互に協力を進めさせている。(藤本忠郎)

大学側 実践教育の機会増 町側 人材生かし活性化

北海道新聞 2005年2月25日



酪農家で夢学ぶ

酪農学園大の本美さん、坂口さん実習

足 寄

関係者ら交流会で激励

【足寄】酪農学園大学（江別市）の実践酪農学コースの学生2人がこのほど、町内酪農家のもとで実習に入った。これに先立ち、町内の飲食店

「熊の子」で交流会が行われ、関係者に意気込みを語った。同コースの学生は在籍4年間の中で2度の酪農実習を行い、単位を取得

する。管内では今回、鹿追町にも4人が実習に入った。

足寄では本美知久さん（2年）⇨愛知県出身⇨が大簷地の王塚善一牧場で、坂口祐子さん（2年）⇨群馬県出身⇨が白糸の梅津昭三牧場で、それぞれ8月18日まで学ぶ。

交流会には安久津勝彦町長も出席し、「決して楽ではないが、やりがいのある仕事。町民とも交流し、足寄の良さも発見して」と激励した。本美さんは「北海道で酪農をやるのが夢だった。実習では迷惑にならないよう頑張りたい」と話していた。

（丸山一樹）

酪農実習で足寄を訪れた本美さん（左）と坂口さん

十勝毎日新聞 2007年4月29日

浜中で酪農の実践を学ぶ

町内の酪農家のもと、実践酪農学の研修をする酪農学園大学2年生3人が4月20日から研修を始めました。

この実践研修は昨年2月、同大学と町が地域総合交流協定を結び実施しているものです。岐阜県出身の山内さんは浜中の永洞牧場で、青森県出身の久保さんは茶内第三の二瓶牧場で、稚内市出身の遠藤さんは姉別の岩松牧場で8月下旬までの4カ月間、電子メールによる遠隔授業や現地の集中講義を受けながらの研修となります。皆さんに将来を尋ねると、酪農に関する仕事に就きたいと抱負を語ってくれました。



山内仁美さん



久保勇太さん



遠藤直史さん

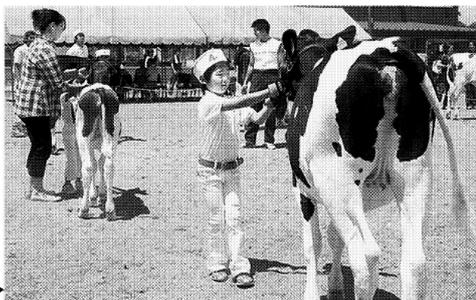
浜中町広報紙 2006年6月

報道

酪農大学生も見学に来ていました（右から現在鹿追で実習中の大竹さん・市岡さん・昨年実習をしていた妹尾さん・次回実習に来る予定の山内さん）



自分より何倍も大きい牛を一生懸命に引きました



審査後のお楽しみ。地区毎に焼肉交流会が実施され、和気あいあいと交流を深めました

バター作り体験も行われ、たくさんの子供達が楽しみました



JA 通信しかおい 2007 年より